

「鬼と人里離れて」 連々

▽鬼：現代社会でひっそり生きている鬼。村では恐れられていて、彼が住む山の空き家には供え物を置く以外に誰も近づかない。しかし、好奇心に駆られたヒロインが接触。村人の声と違って、鬼が優しいことが分かったヒロインはたびたび彼のもとへ訪れる。

●鬼のもとへ来たヒロイン

また、来たのか。

俺に会いに行くと、誰かに知られてないか。

（頷くヒロイン）

そうか。そんなに荷物を抱えているんだから感づかれていそうだけどな。

…ハッ、どうでもいいときた。まあ、そのくらいの心持ちでないと、俺に関わろうともしないだろうしな。

さて、この俺と何をするつもりだ？

（ニヤニヤしながらリュックを漁るヒロイン）

…何を出している。耳かき…？してほしいのか？俺にするのか?! いや、必要ない。

何がいいもんか！自分でやるから…別に、その、本当に…すまん。

（メソメソするヒロイン、顔を覆う）

待てよ！泣かないでくれ…その、慣れないことは苦手で、こんなことまるで、恋人じゃないか…だから…

（恥ずかしい？と、泣くフリをやめて意地悪く笑うヒロイン）

…くそ、そうだよ。恥ずかしいんだ。本当、強引に決めやがる。ほら、やるならやれ。

（ヒロインが膝をばんばんして膝枕を誘導）

角が、刺さりそうだな…いや、そんな鋭利なものではないが、あいや問題は、そこではないんだが…仕方ない。右からな、分かった。

（耳かき開始）

なあ…重くないか？重たいだろ。…平気っていうのは、我慢してるってことか？

（不思議な形、と軽く耳を引っ張るヒロイン）

あーあ話流しやがって。耳の形がな…構造は人間と変わらない。

（しばらくして）

うまいじゃねえか。慣れてるのか？ああ、初めてなのか、…そうか。（安堵）

あの、泣いたフリはやめてくれよ。人間は大抵、鬼を見たら泣くんだよ。お前にやられると、こたえる…

（頷くヒロイン）

ん、よろしく頼む。

……ん？反対？じゃあ、俺はこれでおしまいだ。ここに来い。お前の言うことを聞いたんだ。俺の言うことも聞け。早く、ここに来い。

（ここでヒロインに耳かきしてあげても良いかもしれません）

よし。ん…ああ、髪の手いれか？花の、香りなのか。その花は好きだ。もっかい嗅がせてくれ。スウーーーー…ふふつ。ああ逃げるな！ここにいろ。

…抱きしめて、いいか？

（頷く）

フツ…俺は一人でいるとな、お前のことを考えている。今日は雨だ、とか、鳥が騒がしい、とか、花が咲き始めたとか、そんなことを考える暇が無くなってしまった。

どうしたらいい？人を好きになったところで、幸せになれるはしない。お前が、幸せになれるんだ。…だから、んむっ?!

（いきなりヒロインに口を塞がれる）

ん離せ！急になんだ。

……別れ話、なるほど。…気付くのが早くないか？人は怖いな。いや……お前が怖いよ。な…頼む。俺を嫌いだと言ってここから出てって欲しい。

（はたかれる）

いてっ！話を聞いてくれ。いだだだ!! 暴力で解決にはならんぞ！そんな、そんな簡単に受け入れてしまったら…お前は人の世界に戻れなくなる。

やり方が、ずるい…？それは…そう、だったな。最後だと思ったら、触れずにはいられなかった。ああ、俺は女々しいな。嘘がつけないんだ。そばにいて欲しいのに、強がってこんなこと言ってしまうから…カッコ悪いな、ハハッ…

今が、楽しければいい…その言葉、寿命のあるお前が言うのと重みを感じるよ。

お前が望むなら、俺のそばにいてくれ。

（抱きついてくるヒロイン）

ふふっ…ありがとう。

（いろいろ人居するにあたって画策するヒロイン）

……ここに、住むのか？え？電気？それは、分からないな。人間のことは、え？調べる？…あの、何を…

げ、ゲーム？テレビ？ネット？快適につて、フハハッ…

あーあ。本当、お前はたくましいな。

好きなようにしてくれ。笑っている人間が、俺は好きなんだ。

（鬼と暮らしてるとってネットで知られたらバズっちゃうね！と笑うヒロイン）

え、バズる？まさか………ぜつつったいに、やめてくれ。

冗談で良かったぞ!? ただでさえ、ここが田舎だつてことが幸いしているのに…

ハーア、こりゃ、退屈しなさそうだ、ハハッ…

・ ・ ・ ・ ・ 以上
1269 字

© 連々 <https://www.renrenrenren.com>

二次配布と自作発言は禁止しています。フリー台本であることを記載してください。